

令和7年度第2回保呂羽山少年自然の家協働会議 会議録【要旨】

1 日時・場所

令和7年11月20日（木） 午前10時から

保呂羽山少年自然の家 1階 ジュピター（視聴覚室兼研修室）

2 出席者

（1）【委員】 6名

阿部義和（会長）、高橋大成（副会長）、八嶋洋晃、阿部美紀子、加藤敦美、佐藤友治

（2）【秋田県教育庁生涯学習課】 2名

課長 内田鉄嗣、社会教育主事 佐藤賢輝

（3）【保呂羽山少年自然の家】 6名

所長 公地望、副主幹（兼）チームリーダー 小松正典、主事 茂木陽大、主任社会教育主事（兼）

チームリーダー 湯野澤兄一、主査（兼）社会教育主事 北畠良晴、社会教育主事 矢尾健

3 次第

（1）開会

（2）委員及び職員紹介

（3）所長あいさつ

（4）会長あいさつ

（5）議事

（6）生涯学習課長あいさつ

（7）閉会

4 発言要旨

- ・少子化により利用者総数が減少となるのは致し方ないが、一方で、利用団体数が増加していることは喜ばしい。
- ・猛暑による渇水のため、主催事業であるエンジョイカヌーを実施できなかったことは残念である。
- ・猛暑を避け、9月・10月の涼しい時期の利用を広めていって欲しい。
- ・今年度は全県的に想定を上回る熊の出没があり、各地で中止となったイベント等があったようだが、自然の家での自然体験は重要であるため全て中止するのではなく、今後はマニュアル等の見直しを行い、実施の判断基準や安全と活動のバランスをどう取るのかについて検討して欲しい。
- ・熊対策を充実して欲しい。ドローンによる監視ができるようになればより安心に繋がるのではないか。